



New

タキイ交配

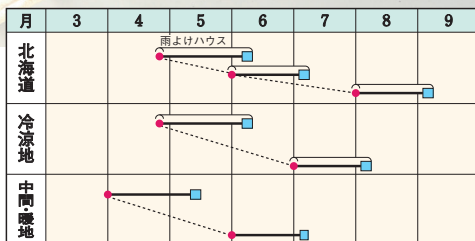
ホウレンソウ

「晩抽サマージェット」

多収性・作業性・栽培性にすぐれ安定収穫を実現
極晩抽品種の決定版！



べと病R	1-15	16	18
		17	19



ポイント

- ✓ 生育遅延が起りにくく栽培容易な極晩抽種
- ✓ 葉柄太くしなやかで多収。収穫・調製が容易
- ✓ 萎凋病いぢょうびょうに耐病性があり、べと病に強い

ホウレンソウは日長で抽苔ちゅうたけが促進されます。抽苔すると市場価値が著しく下がるため、長日期となる4〜6月の栽培に用いる品種には晩抽性が必須です。特に、北海道の6月まきは日本で一番の長日条件となるため、抽苔のリ

スクが最も高く、品種には極晩抽性が必要です。一方で、極晩抽性品種は一般的に生育が遅く、不良環境下で生育が停滞しやすい特性があるため、生産地では気温や乾湿の影響を受けにくく栽培が安定しやすい極晩抽性品種が求められていました。

2022年発表の「晩抽サマーヒット」は晩抽性、多収性、作業性を兼ね備えた品種として本州冷涼地を中心に現在評価をいただいています。「晩抽サマーヒット」の特性をもちながら、さらに栽培性の高い極晩抽品種を目標として育成を進めてきたのが「晩抽サマージェット」です。

「晩抽サマージェット」は北海道をはじめ本州主要産地での継続的な試験の結果、高いレベルの極晩抽性、栽培性とともに、当社ホウレンソウのコンセプトである多収性と作業性の両立を達成できたため、このたび新発表の運びとなりました。

タキイ茨城研究農場
神田 拓也

品種特性

▶栽培が容易な極晩抽種

晩抽性が極めて安定しており、北海道の4～7月まきでも栽培可能です。極晩抽種の中では高温や乾燥条件での生育遅延が起こりにくく栽培しやすいことが特長です。

▶多収で在圃性にすぐれる

大葉で葉柄が太るため株張りがよく多収を期待できません。徒長しにくく、生育がじっくりしている在圃型のため、収穫適期幅が広く計画的な出荷が可能です。

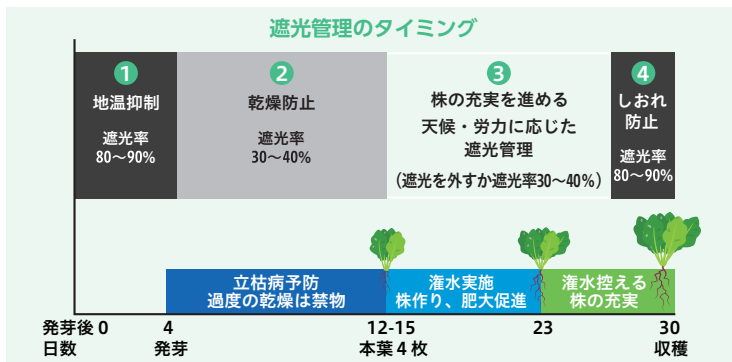
▶栽培を安定させる耐病性

べと病抵抗性はレース1～15・17・19をもち、春のべと病対策に適応できます。萎凋病には中程度の耐病性をもちます。

▶収穫・調製が容易

草姿は立性で、葉柄もしなやかで折れにくく収穫・調製作業がストレスなく行えます。

栽培ポイント



「晩抽サマージェット」栽培メモ	
肥料の目安(10a当たり)	N : P : K = 15 : 20 : 15kg
定植基準 (株/10a、条間、株間など)	条間15~20cm 株間6~8cm
温度管理の目安	25-30°Cを目安に遮光管理 ※栽培ポイント参照
栽培ポイント	過度の乾燥条件を避け、収穫前まで適湿を保つ 遮光資材を活用して、生育中のストレスを軽減する

本州冷涼地での「晩抽サマーヒット」との使い分け

晩抽サマージェット



晩抽サマーヒット

「晩抽サマージェット」の生育は「晩抽サマーヒット」よりも2日程度遅く、より在圃性があります。

「晩抽サマーヒット」を基軸に栽培しながら、特に徒長しやすい時期は「晩抽サマージェット」に切り替えることで、より在圃性が期待できる栽培体系となります。

北海道・本州冷涼地における推奨作型表

品種		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
北海道	晩抽サマージェット	播種期							
		収穫期							
	晩抽サマーヒット	播種期							
		収穫期							
本州冷涼地	晩抽サマージェット	播種期							
		収穫期							
	晩抽サマーヒット	播種期							
		収穫期							

生育ステージに応じて、灌水を実施
過度な乾燥条件では多収の特長が発揮できない場合があります。特に生育中盤(本葉5~6枚)以降は、1回の灌水量を多めに実施することで葉肉が厚くなり、1株当たりの重量が増加し、株張りがよくなります。

遮光資材を活用した高温時の温度管理(左図)
① 発芽までは、遮光率の高い遮光資材(80~90%)で地温を下げることで重要です。

② 発芽後、遮光率の低い遮光資材(30~40%)に切り替え、立ち枯れが心配な時期まで地温の上昇と乾燥を防止します。
③ 本葉4枚目以降は、株張りを充実させるため基本的には遮光を外しますが、曇天が続いたあとと高温時など生育に影響を与える場合は、天候に応じた遮光管理が必要です。遮光資材の上げ下ろしが難しい場合は、遮光率が低い遮光資材(30~40%)を使用します。
④ 収穫時は、遮光率の高い遮光資材を収穫前日に掛けておき、しおれを防止します。